

平成15年度北西太平洋アカイカ漁況予報

－別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
北海道区水産研究所がとりまとめた結果－

今後の見通し（2003年9月～12月）

東経155度以西の北西太平洋海域における
アカイカの来遊水準は2002年を上回る

2003年9月～12月の来遊見通し

漁期・漁場：漁期前半の漁場は、三陸沿岸域および
143°E～147°Eでは39°N～41°N付近に、150°E以
東では42°N付近に形成される。
漁期後半の漁場は、143°E～147°E、39°N～41°N
付近に形成される。

魚体：2002年より大型個体の割合が高い。
10月の魚体は22～32cmが主体。

1. 本予報は水産庁のホームページ (<http://www.jfa.maff.go.jp/>)，水産総合研究センターにおける我が国周辺水域資源調査等推進対策委託事業のホームページ (<http://abchan.job.affrc.go.jp/>) に掲載されます。
2. 本予報の内容等に関する問い合わせ先は、以下のとおりです。
水産庁増殖推進部漁場資源課沿岸資源班 担当：竹葉・狭間
住所：〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1
電話：03-3502-8111（内線7376） 03-3501-5098（直通）
ファックス：03-3592-0759
電子メール：toru_hazama@nm.maff.go.jp
水産総合研究センター 北海道区水産研究所 企画連絡室
住所：〒085-0802 北海道釧路市桂恋116番地
電話：0154-92-1701 0154-92-1715
ファックス：0154-91-9355
電子メール：kiren@hnf.affrc.go.jp

参 画 機 関

北海道立釧路水産試験場	(社) 漁業情報サービスセンター
北海道立函館水産試験場	水産庁漁場資源課
青森県水産総合研究センター	独立行政法人水産総合研究センター
岩手県水産技術センター	北海道区水産研究所
宮城県水産研究開発センター	東北区水産研究所八戸支所
福島県水産試験場	遠洋水産研究所
茨城県水産試験場	

平成15年度北西太平洋アカイカ漁況予報

今後の見通し（2003年9～12月）

対象魚種：アカイカ

対象海域：155°E以西の北西太平洋

対象漁業：いか釣り

対象魚群：冬春生まれ西部系群（2003年級群）

魚体の大きさは外套背長で表示

- (1) 来遊水準：2002年を上回る。
- (2) 漁期・漁場：漁期前半の主漁場は、三陸沿岸域および143°E～147°Eでは39°N～41°N付近に、150°E以东では42°N付近に形成される。漁期後半の主漁場は、143°E～147°E、39°N～41°N付近に形成される。
- (3) 魚体：2002年より大型個体の割合が高い。10月の魚体は22～32cmが主体。

漁況の経過（2003年4～8月）および見通しについての説明

(1) 資源水準

漁獲対象系群の資源水準を中型いか釣り船のCPUE（1回操業当たり漁獲量）から推定すると、1970年代～1990年初頭にかけて資源は減少傾向で推移していたが、その後増加に転じ、1993～1998年までは高水準を維持していた。しかし、1999年に再び急減し、2002年も前年を大きく下回る低い水準であった。2002年の太平洋海域における漁獲量（9～12月、生鮮・冷凍、製品重量）は478トンであり、2001年（4,351トン）の11%、2000年（11,176トン）の4%にまで減少した。

(2) 関連調査結果

- ・ 予測対象海域へのアカイカの来遊量および分布状態等を把握するために、試験研究機関等の調査船によるいか釣り漁獲試験が、三陸～北海道の太平洋海域（155°E以西）において、2003年6月中旬～7月上旬（7隻）、8月下旬～9月上旬（5隻）に実施された。
- ・ 6月中旬～7月上旬に実施された調査結果によれば、アカイカの漁獲は38°N～39°N、148°E以东の海域が多く、148°E以西での漁獲は少なかった。調査での有漁調査点割合および平均CPUE〔各調査点CPUE（釣り機1台1時間当たり漁獲尾数）の平均〕は18.0%と0.6（尾/台/時）であり、2002年の調査での47.7%と0.3（尾/台/時）に比較

するとCPUEは高いものの出現頻度は低い値であった。

- ・ 8月下旬～9月上旬に実施された調査結果によれば、アカイカは津軽海峡周辺海域～道東沿岸域を除く三陸沿岸～沖合域で漁獲され、特に145°E以西の海域では高いCPUE〔100.4、74.2(尾/台/時)〕を示す調査点も2カ所認められた。2003年の有漁調査点割合および平均CPUEはそれぞれ59.6%と8.1(尾/台/時)であり、2002年の50.9%と1.4(尾/台/時)を共に上回り、1995年以降では1996年、1998年並みの水準であった。

(3) 2003年の各海域の漁況経過（主に4～8月末まで）

- ・ 北海道太平洋海域：道東近海では8月末までの水揚げ無し（前年0）。道南では4月以降の水揚げ無し（前年0）。
- ・ 三陸海域：八戸港の7月末までの水揚げは1,612トン（前年1,329トン）。岩手県主要港での8月末までの水揚げは5トン（前年1トン）。宮城県主要港での8月末までの水揚げは2トン（前年9トン）。
- ・ 常磐海域：福島県主要港での7月末までの水揚げは無し（前年0）。茨城県での7月末までの水揚げは無し（前年0）。

(4) 魚体の大きさ

2003年8月下旬～9月上旬に実施された太平洋いか類第2次漁場一斉調査で、いか釣り機によって漁獲されたアカイカの外套背長組成は21cmにモードを持つ単峰型を示したが、18～28cmまでの頻度に大きな差はなく、前年と同様に組成の幅は広がっていた。2002年同期の外套背長組成は19cm、22cm、26cmに組成の峰を持つ多峰型であり、2003年は20cm以下の小型個体の比率が減少し、25cm以上の大型個体の比率が増加していた。アカイカの月間成長量は村田・早瀬(1994)によると、6～10月で2.7～4.0cmと推定されている。

(5) 東北海区海況予報

アカイカの分布・移動は黒潮系暖水、暖水塊並びに親潮の動向と密接に関連している。2003年9～11月の東北海区の海況は次のように予測されている（平成15年度北西太平洋サンマ長期漁況海況予報会議東北海区海況予報による）。

- ・ 近海（146°E以西）の黒潮の北限位置は、平年並～やや南偏（35°30'N～36°30'N）で推移する。
- ・ 黒潮系暖水（100m深10℃以上）の北限位置は、近海で平年並み～やや南寄りに推移する。
- ・ 釧路南東沖の暖水塊は持続し、金華山沖の暖水塊は西方へ移動する。

- ・親潮第1分枝の張り出しは、やや南偏（ $39^{\circ}30'N$ 以北）で推移し、常磐近海に冷水域が残る。
- ・津軽暖流の下北半島東方への張り出しは、平年並～やや強勢（ $143^{\circ}20'E$ 付近まで）で推移する。

今後の見通しの説明

- ・いか釣り漁獲試験結果および各海域の漁況動向から、北西太平洋に來遊するアカイカ冬春生まれ西部系群の資源水準は近年では低水準であった2002年を上回ると推測される。
- ・例年、8～10月のアカイカ主漁場は、 $150^{\circ}E$ 以西では襟裳岬南東沖合の海山周辺域（ $40^{\circ}N\sim 42^{\circ}N$ 、 $144^{\circ}E\sim 147^{\circ}E$ ）に、 $150^{\circ}E$ 以东では9、10月に最も北上し、 $42^{\circ}N\sim 44^{\circ}N$ 、 $154^{\circ}E\sim 159^{\circ}E$ の水域に形成されることが多い。11、12月の主漁場は、 $150^{\circ}E$ 以西の8～10月の場合とほぼ同じ水域に形成されている。
- ・2003年8月下旬～9月上旬に実施された第2次漁場一斉調査によると、アカイカが多獲された海域は $39^{\circ}N\sim 40^{\circ}N$ 、 $143^{\circ}E\sim 145^{\circ}E$ の近海域であった。
- ・2003年9～11月の東北海区の海況は、親潮が平年並み～南偏、黒潮系暖水が平年並～やや南寄りと予測されていることから、9月以降のアカイカの主分布域は、平年よりも南偏すると考えられる。
- ・月間成長量を考慮すると、漁獲主体は22～32cmになると推定される。